日本歯科大学新潟病院と地域医療をむすぶ

Vol.6
2010.1.1

日本歯科大学新潟病院 IVY NEWS LETTER

～地域歯科診療支援病院と地域医療の融合を目指して～

医療相談室の実際

日本歯科大学 新潟病院 総合診療科 教授
医療相談室 室長
黒川　裕臣

あけましておめでとうございます。今年は寅年です。寅の刻は午前4時から前後2時間であり、皆様におかれましては、綺麗な朝日のように、希望に満ちた年でありますよう祈念いたします。

当院は、安全・安心な開かれた医療を提供させていただくことにより地域住民の健康支援を目標としております。そのなかで、医療相談室は診療や入院に関することから、施設面などについてのご意見・ご相談を伺い、誠意を持って適正に解決するよう努力しております。

相談内容は、診療・入院・受付・院務・施設・要望・感謝・その他の項目に分類しており、インシデント・アクシデントに該当する事例は、当院の医療安全推進委員会に報告し、そこで検討しております。平成15年から平成20年の相談件数は、最大で平成16年の75件、最小で平成19年の31件であり、平均52件でした。ご意見箱(投書)や手紙など間接的な相談では、施設・要望・感謝が5割以上であり、病院職員や電話など直接的な相談では、診療が5割以上でした。いずれの相談内容も重要度について差異ありませんが、直接相談のほうが早急な対応が求められる事例が多いのが現状です。対応が必要と判断された事例については、相談者と対象の病院職員から内容を聞き、時系列に記録し、内容が異なる事柄について検討してから、相談者と面接し理解を頂くよう努力しています。

このような流れで敏速に行動することと、いったん得られた情報を白紙にした状態で相談者の訴えをしっかりとお聞きし、全体像を把握して問題点の絞り込みをおこなうことが大事です。相談内容項目、フローチャート、記録票などについて、問題解決に効果のある書類を整備する予定です。また、マニュアルの必要性は十分認識しておりますが相談内容、相談者の人間性はそれぞれ異なり、使い勝手のよいマニュアルは困難と感じておりますが、ぜひ作成したいと考えております。医療相談は、事例とその対応の蓄積を医療スタッフと共有することが解決の助け、さらに予防につながると思います。ぜひ、地域の先生からのご意見、ご指導で連携させていただき、よりよい対処の確立を目指したいと思います。

今後とも努力してまいりますので、よろしくお願い申しあげます。

Today's Topics

1. 口のかわき治療外来

●日本歯科大学新潟病院
口腔外科　講師
口のかわき治療外来　医長
戸谷　収二

◆1. はじめに

最近、口のかわき（ドライマウス）を感じている方が増えています。これは日本の高齢化にともなって患者が増加していると思われます。しかし、患者はどの診療科に受診すればよいのかわからず内科や耳鼻咽喉科など、さまざまな診療科を受診するも直接生命に影響ないとのことで、ないがしろにされてきた感がありました。

このような口のかわきで来院する患者に対応するため、当院においても専門外来として2003年9月から「口のかわき治療外来」を立ち上げ診療しています。

◆2. 口のかわき治療外来の診療概要

❶コップは置かない!?

コップを診察前に置かないようにしています。これは患者さんが思わず水を口に含むことにより口腔内に水分が残り、ドライマウスの診査に影響してしまうためです。

❷ドライマウス評価

1. 安静時唾液量

安静時唾液量（15分間）を測定しています。1.5ml以下を唾液量減少としています。

2. サクソンテスト

滅菌ガーゼを一秒に一回、2分間噛んでもらいます。前後の重量で唾液分泌量評価します。2.00g/2分以下だと唾液分泌低下と判断します。

3. ガムテスト

ガムを10分間噛み、その間に分泌された唾液量を測定します。10ml／10分以下で唾液分泌低下と判断します。

4. 口腔水分計（ムーカス）

舌や右頬粘膜に口腔水分計を押し当てます。約2秒で計測できます。

5. 反復唾液嚥下テスト(Repetitive Saliva Swallowing Test : RSST)

唾液の潤滑作用の低下で嚥下機能が障害されている可能性もあり、RSST(反復唾液嚥下テスト)をドライマウスの評価に取り入れています。

6. 口腔診査による評価

耳下腺や顎下腺などを刺激して唾液腺開口部からの唾液分泌状態も評価します。

7. 自覚症状の評価

本人の自覚症状をVAS法(Visual Analogue Scale)として100の整数で評価し、治療前後の効果判定の指標としています。

8. カンジダ検査

ドライマウス患者には痛みを併発している患者が多く、その原因として口腔カンジダ症が考えられています。

9. 血液検査

シェーグレン症候群が疑われるような患者では、抗Ro/SS-A抗体、抗La/SS-B抗体の測定をします。

10. 画像検査

シェーグレン症候群のように唾液腺機能障害が疑われる患者には唾液腺シンチグラフィやシアロMRIによる唾液腺機能評価を行っています。

11. 口唇腺の生検

シェーグレン症候群が疑われる患者では下唇から小唾液腺の生検を行っています。

❸診断と治療

以上の診査検査をして診断をしていきますが、初診時ではすべての検査結果がでないので、なかなかドライマウスの原因を確定するのは困難です。そこで、当外来では検査結果を報告する次回来院まで「初期治療」として唾液腺マッサージや舌のストレッチ、保湿剤、含嗽剤など比較的導入しやすい対症療法を行っています。場合によってはこの治療で症状が改善してしまうこともあります。約2週間以内にもう一度、再評価して診断・治療を進めています。

◆3. シェーグレン症候群のドライマウス治療

口のかわき治療外来ではシェーグレン症候群の診断が確定した患者のドライマウス治療の代表薬として、塩酸セビメリンや塩酸ピロカルピンを投薬しています。副作用があるため、少量から投与して個々の患者さんの効果と副作用の程度で投与量を決定して対応しています。

◆4. 終わりに

口のかわきで困っている患者さんの対応で苦慮することがあれば当外来にご紹介して頂ければシェーグレン症候群の診断基準の検査も含めて対応いたします。治療が安定しましたら原則的には紹介医の先生へ継続治療のためお戻り頂きます。

患者さんをご紹介頂く場合は電話予約をお願いします。初診時は約1時間程度の診察時間がかかる旨を患者さんに伝えて頂ければ幸いです。

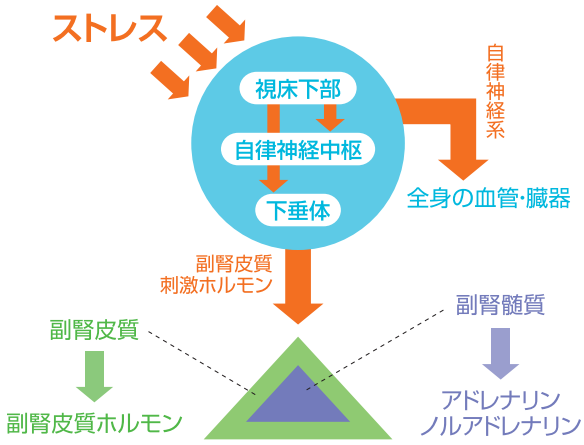
Today's Topics

2. 歯科鎮静リラックス外来

●日本歯科大学新潟病院
歯科麻酔・全身管理科　准教授
歯科鎮静リラックス外来　医長
大橋　誠

◆歯科におけるストレス

1936年にハンス・セリエは、生物が外的もしくは内的な刺激に対し適応していく過程を指す言葉としてストレスという概念を発表した。人間に限らず動物は命の危険を感じたときに闘争・逃走反応を示す。つまり交感神経を興奮させることにより万一怪我しても出血を最小限にし、脳などの重要臓器に血液が集中する様に末梢血管収縮や凝固機能亢進、さらに血圧上昇、脈拍数増加、血糖値上昇により急激な運動に対応できる様にすることによって我々の祖先は生き抜いてきた。つまりストレスとは本来、外界から受ける恐怖や痛みや内面における葛藤などの「負荷」に対し、私達の肉体が均衡を保つために必死に努力している危うい状態を指す言葉であった。ここで歯科の診療室に目を向けると、痛み、麻酔の注射、タービンの音や振動、独特な薬品臭、逃げ場の無い環境と、人間にストレスを加えるものに満ちている。しかしそれによって惹起された交感神経の興奮状態（高血圧・頻脈・高血糖・血液濃縮）は生体に取って負荷となるだけでなく高血圧症、虚血性心疾患、糖尿病、脳梗塞などに対しては致命的な影響を与えることにもなりかねない。高齢化が進む現在、増々術中の鎮静法が歯科において重要となるものと思われる。



ストレス

生体に加わった時 **闘争・逃走反応** を起こす。
Fight or Flight reaction

闘争・逃走反応は長い進化の過程で生体が獲得した反応様式

末梢血管収縮	咬まれた時、皮膚からの出血量を減らす 血液を脳、筋肉などへ供給
脳血流量増加	思考能力の向上
筋肉血流量増加	筋力増強（戦うにしても逃げる時も）
解糖亢進	思考能力の向上、筋力増強

そのために血圧上昇、脈拍増加、血糖値上昇がおこる。

◆歯科鎮静リラックス外来

笑気吸入鎮静法

静脈内鎮静法で使用する薬剤各種

当外来では、歯科診療に伴うストレスによって引き起こされる全身状態の変化が、一般に耐えうる状態を越えてしまう患者さんに対し、笑気を使用した吸入鎮静法やミダゾラムやジアゼパムといった鎮静薬、ケタミン･プロポフォールなどの静脈麻酔薬を使用した静脈内鎮静法を適用し、安全で快適な歯科治療環境の提供に務めている。具体的には①過去に神経原性ショック、過換気症候群など診療時のストレスが原因と思われる偶発症の既往が有る。②高血圧や狭心症といった循環器疾患や糖尿病などの基礎疾患を有し、歯科診療によるストレスの影響を最小限に抑える必要が有る。③パニック障害や極度の異常絞扼反射（嘔吐反射）等を有し、通常の診療室での対応が著しく困難。などの患者さんが対象となる。実際の鎮静法の選択には、治療内容、患者さんの協力状態ならびに全身状態、実際に治療を行う術者の希望等を勘案し症例毎に詳細に検討を加え決定している。

歯科鎮静リラックス外来の対応

- 歯科治療に伴うストレスが原因となる偶発症の既往が有る。
- 基礎疾患があり、歯科治療によるストレスを出来る限り軽減する必要が有る。
- パニック障害･異常絞扼反射等で通常の診療室での対応が著しく困難

◆至適鎮静と過鎮静

我が国では笑気吸入鎮静法に限らず、緩和精神安定剤や静脈麻酔薬を用いた静脈内鎮静法においても、患者が意識を保ち、呼吸抑制の起きないconscious　sedation（意識下鎮静法）が主流で、患者が全く意識を持たず限りなく全身麻酔に近いdeep sedation（過鎮静）は行われない。これは呼吸のための気道経路と治療対象部位が一致している歯科特有の条件が関係しており、呼吸状態を患者の自発呼吸に依存する精神鎮静法においてdeep sedationでは安全を確保できないとの配慮によるものである。呼吸抑制が起こる程の過鎮静が必要な場合には、むしろ確実な気道確保が期待できる全身麻酔によるべきと考える。

「第12回新潟市健康福祉まつり」に参加しました

新潟病院は、平成21年10月25日（日）万代シティパークを会場に開催された「第12回新潟市健康福祉まつり」に新潟市歯科医師会・新潟市保健所・新潟県歯科衛生士会、新潟大学歯学部などと共同で出展参加しました。この催しは、多くの市民が福祉の現況や健康づくりについて考え、関心を深めるとともに、市民の方々の助け合いの輪が広がることを願って、例年開催されています。

総勢約57ブースが出展された大規模な催しですが、本院からは、「いき息さわやか外来」の大森みさき医長と安川俊之医員に、学生ボランティアが協力し参加しました。「噛みしめる　生きる喜び　歯とともに…」をスローガンに、市民の皆様に口臭測定を体験していただくなど、お口の健康増進に関する啓発活動を行いました。多くの皆様から、楽しみながらお口の健康を学ぶことができたと大変喜んでいただけました。

また協力してくれた学生ボランティアからは、「歯科の分野で地域の方々の健康を支えていく私達には大きな責任があり、歯科医療は本当にやりがいのある仕事だと改めて実感しました。」などの声が聞かれ、これから歯科医師を目指す者にとって、かけがいのない大切なことを学んでもらえたようです。

日本歯科大学新潟病院地域歯科医療支援室

メールマガジン登録の御案内

■近年、歯科界を取り巻く情勢は厳しく、医療法改正や診療報酬改正においても、医療安全、院内感染対策をはじめとする研修の義務化や、医科歯科連携を含む他業種との連携強化などが要件として盛り込まれるなど、各種医療情報の早期収集や病診連携が重要になっております。このような現状をふまえ、新潟病院地域歯科医療支援室では、地域の歯科医師を対象に、メールマガジンを開設いたしました。

■本事業にご登録いただくことにより、新潟病院関係各科からの医療情報や医療安全情報、研修会、講習会、学会情報などの御案内を優先的にさせていただくシステムです。

■登録ご希望の先生は、申込書を支援室直通FAX（025-267-1546）していただきたく存じます。申込書は、新潟病院ホームページ地域歯科医療支援室（http://www.ngt.ndu.ac.jp/hospital/index.html）からダウンロードできます。

■なお本システムのサーバ管理は、新潟病院生命歯学部ITセンターにて行います。また地域歯科医療支援室は、本事業における収集した個人情報の漏洩、滅失又は棄損の防止、その他収集した情報の適切な管理のために必要な措置を講じます。

【注意事項】
受信される先生のメール環境によっては、マガジンのメール容量が重いため配信できない方がおられます。添付ファイルの軽量化を図るなど、改善策を講じておりますので、しばらくお待ちください。

【免責事項】
メールの配信については、回線上の問題（メールの遅延、消失）等により届かなかった場合の再送は行いません。
本事業は、新潟病院の都合により、「新潟病院ホームページ」において予告した後に中止又は廃止されることがあります。
新潟病院は、本事業の利用、運用の中止、延期、終了等により発生するー切の責任を負いません。

●本メールマガジンへのお問い合わせ、ご意見、ご希望ありましたら、shien@ngt.ndu.ac.jpまでお寄せください。

編集後記

■毎年恒例の「今年の漢字」、2009年は「新」でした。政権交代して新内閣が発足、裁判員制度や高速道路料金割引制度など新制度がスタート、メジャーリーグのイチロー選手や水泳競技での新記録ラッシュ、世界中で猛威を振るった新型インフルエンザなどなど、新しい話題がたくさんありました。こじつけかもしれませんが、「新」は新潟の新でもあります。2009トキめき新潟国体、日本政令市にいがた水と土の芸術祭2009など、新潟の活躍が目立った一年でもありました。2010年、気持ちも新たにより良い一年となるよう過ごしていきたいものです（中）

日本歯科大学新潟病院
IVY NEWS LETTER
Vol.6 2010.1.1
発行日／平成22年1月1日　発行人／関本恒夫
〒951-8580 新潟県新潟市中央区浜浦町1-8
TEL 025-267-1500（代）FAX 025-267-1546（支援室直通）